



学年打合せをしながらの文書作成

学年	全教員
教科・領域	校務
ICT機器やアプリ名等	<ul style="list-style-type: none"> ・校務用パソコン ・Microsoft office

ICT活用のポイント

- ・ファイルの協働編集ができる設定(条件)を知る。
- ・同時に編集できるので、他者の入力を待つ必要がないことを確認しておく、作業がスムーズに進む。

○協働編集機能を使った、話し合いながら即座に記入・修正

・ワードやエクセルの協働編集機能を使い、効率化を図る。

①学年だより

打合せをしながら表現の修正や必要事項の加筆等がリアルタイムで同時に行うことができる。

→文書作の時間の短縮

②校内での取組の反省

話し合いながらリアルタイムでそれぞれの人が入力することで、効率化が図れ、複数の学年が同時に書き込みができることで、ストレスなく、また作成時間を大幅に削減できる。

→校務の中で効率よく編集作業ができることで、授業の中で活用するアイデアが生まれてくる。

この親子図工に多数参加いただき、ありがとうございます。作品の骨組みがしっかりできました。2月の図工展を12月のしめくりの時期です。楽しい冬休みを迎えるために、体調を整えましょう。←

12月の予定



同時編集のようす
(青とピンクのカーソルが同時編集者)



AIドリルを活用した自宅学習

学年	全学年
教科・領域	国語・数学・社会・理科・英語
ICT機器やアプリ名等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 端末 ・ Qubena（デジタルドリル）

ICT活用のポイント

- ・生徒が自分のペースで学習を進めていくことができる一方で、家庭学習が定着していない生徒は、積極的にフォローしていく必要がある。
- ・長期休業中の課題など、教科間で事前にデジタルドリル課題の足並みを揃え、ペーパーレス化を進めることができる。

○AIドリルを活用し、個別最適な学びの推進を目指す。

【Qubenaの特徴】

- ・AIが各生徒の回答から間違いの原因を分析し、各生徒に最適な問題を出題することができる。
- ・どの学年の生徒でも、小学校1年生の問題から中学校3年生の問題まで自由に選べ、つまづきを感じた単元をいつでも復習することができる。
- ・教師から課題の内容を設定することもでき、学習後すぐに取り組んでほしい内容を学ばせることができる。
- ・過去に解いたものだけでなく、生徒の進捗をリアルタイムで見ることができ、授業中に正答率の低い生徒へのフォローができる。

6月実力テスト			全回答数	正答率(平均)
A	100	A	671	90.5%
B	88	PP	32	96.5%
C	82	B	356	96.5%
D	80	F	270	93.5%
E	78	E	612	92.0%
F	77	C	1523	91.5%
PP	76	D	2462	89.0%
PP	72	PP	103	87.0%
PP	67	A	302	78.5%
PP	68	PP	160	78.5%
A	66	PP	194	77.5%
PP	68	PP	121	76.5%
PP	60	C	621	76.0%
B	41	B	521	75.0%
PP	40	PP	68	72.5%
PP	39	PP	62	72.0%
PP	34	PP	333	69.5%
PP	34	PP	439	64.0%
PP	34	PP	295	61.5%
PP	34	PP	190	59.0%
PP	32	PP	153	56.0%
C	28	PP	66	50.5%

AIドリルと実力テストの相関

ピンクの箇所は、AIドリルの正答率が高い生徒である。その生徒は実力テストで高得点を取得している。

黄色の箇所は、AIドリルを数多くこなしているが、正答率が低い生徒である。この生徒たちが支援を必要としている。

AI搭載型時間割作成ソフト「アイデア」の導入

学年	全学年
教科・領域	—
ICT機器やアプリ名等	・端末 ・校務用PC ・(株)アイデアシステム 時間割作成ソフト「アイデア」

1

ICT活用のポイント

・時間割作成業務は、年度当初の校務の中でも、時間がかかる難度の高い校務の1つである。主に、数学担当の教員が携わり、4月初旬から学校組織の体制が定まる中旬にかけて、長期間に渡る作業を伴うため、完成までに多くの時間を有する。こうした業務を洗い出し、アプリ等を積極的に活用することで、業務改善につながる。

アイデア操作画面

AI

アイデアに条件設定を入力

